

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 43

2022年9月27日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

次世代を担う子供たちを育てる

～小平市立小平第十三小学校の取組～

校長 山倉 尚

令和4年度、小平十三小は新1年生61名を迎え、全校児童362名でスタートしました。

21世紀はAIの時代です。機械的な作業は機械が人間の代わりをしてくれます。その中で人として生きていくために最も重要なことは、「自ら学び考える」と「他と共に」の2点に尽きると考えています。これに基づき、子どもたちのみならず、教職員、保護者、地域社会が、自ら学び考える、他と共にという考え方を共有し、自己の向上を求め続ける学校を目指す学校像に掲げました。本校では21世紀という新しい時代を生きていく子供たちを育てるために、「自ら学び、他と共に生きる子供」を卒業時に目指す子ども像としています。

また本校は今年度、これまでの小中一体型から単独型のコミュニティ・スクール(以下 CS)として新たな

一歩を踏み出しています。CS では、保護者・地域社会が学校の教育活動に参加・参画する機会を積極的に設け、願いを受け止め、地域に根ざした特色ある学校づくりを推進することが求められます。地域と共に子どもたちを育てる基盤を固め、学校の方針や教育内容、教育活動に関わる情報を発信するとともに、子育てに関わる啓発を積極的に行いながら、新たな学校づくりに努めているところです。現在、コロナウイルス感染防止は急務の状況で、この状態がすでに2年半続いています。今年度4月当初に保護者・地域の皆様にお伝えしたのは、どのような状況下においても、十三小は「絶対に教育活動を止めない」。そして、「今何ができるかを工夫し、教育の効果を最大限に高めていく」を念頭に、子どもたちの成長をサポートしていくよう、教職員一同が総力を発揮して取り組んでいくという決意であり、これは現在もまったくぶれることなく、教育活動推進の根幹に据えています。十三小は今後も、地域の人材や素材を積極的に取り入れ、共に子どもたちを育てる教育活動をさらに推進していきます。今後とも、ご家庭・地域の皆様のご理解・ご支援を賜れば幸いです。

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

地域のその後

白梅学園大学研究員 宮本美子

「きよか」も「さつき」も借りていた場所がなくなって、その後の活動も止まってしまったが、私なりの視点からその後を考えてみたい。今、ちょっと気になっているのが「結」(ゆい)という地域の連帯である。遠くにいて一番気づくのは、かやぶき屋根のふき替えだが、岐阜県の白川郷にある合掌造りの家々は、家主が「結」に依頼して行うということだ。私の父方の実家は茨城県の古河市にあったが、そのかやぶき屋根の家は祖母が大切にしていた。「死んだらこの屋根家から抜けて出るから、どうかこの屋根はこのままにしてほしい。」と常々言っていた。それで、葺き替えとなれば大騒ぎで、もうその頃は本職の業者に頼んでいたと思うが、ビールを出したら喜んでもらえたとか心付けを渡したら喜んで帰ったとか自慢話は尽きないのだった。白川郷の「結」は10年や20年の話ではないのだ。

さて、西ネットが10年ということだが、「食べる」ことが人の集まりに欠かせないにしても、場所は何とかなるのではないかというのが私の思うところだ。近所で「エバーグリーン」という老人会の集まりがあったが、新年にはバスを借りて成田まで初詣に行き、日帰りバス旅行もたびたび企画、道路で何やらモクモクと煮炊きをしていると思ったら炊き込みごはんを作って輪投げ大会などのレクリエーションに興じ、暮れには餅つきが欠かせない。「きよか」も昼食づくりや場所の提供にこだわらず、皆で何かに取り組むという視点を持つというのが次の気持ちの持っていきたいと思う。例えば、緑成会整育園にコーラスグループを組んで慰問に行く、名前シール縫い付けのボランティアに行くなど地域を知る活動も大切だと思う。「結」のつながりとまではいかななくても、何かを一緒にやるという気概を持つことが80歳まで現役で働くという時代に大切だと思う。

「第五福竜丸展示会」に参加して

小平市 中学生 瀧野 瞬

僕は、7月18日(月・祝)に「(中・)高校生平和ゼミナール」の「第五福竜丸展示会」に参加しました。何故僕が参加を決意したかといいますと、元々学校の授業で戦争について学び、「当時の人は兵器についてどんな印象だったのだろう」と気になっていたところ、奈良先生からこの展示会のお誘いをいただき、参加を決意しました。

展示会では、まず職員の方からお話を聞きました。お話を聞き、とっても怖かったです。乗組員の視点になってみてもだし、その家族の考えにたっても怖かったです。



僕は、戦争なんてない方が絶対がいいと思います。どんな理由があっても、絶対、戦争なんて駄目です。人の命を、未来を奪うなんて駄目です。今、ロシアとウクライナの戦争がありますが、一刻も早く戦争が収束するこ

とを願っています。僕以外の参加者の感想・意見はとても素晴らしかったです。僕と同じ意見をもっと分かりやす

く言ってくれて、とてもよい機会でした。次にこのような機会があれば、是非参加させていただきたいです。

7月あそぼうかい「さあ行こう 夏の探検隊」

山川琴音

白梅学園大学子ども学科1年

2022年7月9日に、あそぼうかい&世代間交流広場を開催しました。今回のテーマは「さあ行こう 夏の探検隊」と題し、普段見る機会があまりないような夏を連想させる景色を見て、遊びを通して楽しめる空間にすることを目標に準備を進めてきました。当日には多くの方にお越しいただき、楽しんでもらうことができました。



あそぼうかいでは、5つのコーナーが展開されています。7月あそぼうかいでのそれぞれのコーナーの様子をご紹介します。

参加者の方々に一番最初に関わる「受付コーナー」は、ひまわり畑をイメージした装飾を行い、ひまわりから紙でできた葉を取って名札作りをしました。また、カラフルな虫眼鏡を配布し、探検隊気分を盛り上げる工夫をしました。

「制作コーナー」では、海の中をイメージした内装でクラゲ、イカ、タコの3種類から作りたいものを選んでもらい、自分なりの海の生き物を作りました。

くつろぎの空間である「ホットスペース」では、ジャングルをイメージしました。虫やジャングルの生き物が描かれた自作の車と自由につなぎ合わせられるレールでプ

ラレールができるブースを作りました。また、魚釣りをしたり、ミニハウスに入ったり、フォトスポットなど様々な遊びができました。

思い切り遊ぶための「あそびコーナー」では、浜辺をモチーフに魚釣りや輪投げ、フラフープなど様々な遊びが展開されました。部屋の外にもクイズを並べ、コーナーに向かうまでの道のりも楽しめるような工夫をしました。



あそぼうかいの締めくくりとなる「おわりのつどい」では、「残念な生き物図鑑」を元に、困っている動物を助けるという劇を行いました。ストーリー性があり面白かったことから、参加者の方々からも人気がありました。

これら5つのコーナーを参加者の方々に楽しんでいただくとともに、学生も一緒に楽しみながら学ぶことができる非常に良い場となりました。次回のアそぼうかいも、参加者の方々に「また来たい」と思ってもらえるような、また、笑顔になってもらえるようなイベントにしていきたいです。

「だれでも食堂(ゆらい)」開設しました

代表 市東和子

小平市小川西町に小平市内で 13 番目に開設されました「誰でも食堂(ゆらい)」をご紹介します。コロナ禍ではありますが、タイミングを得て、食堂の開



催場所である、小川西町公民館の令和3年度の講座で、地域で出来る子育て支援を目標に「子育て支援講座」が開催されました。小平市子ども家庭支援センター長のTヘラン様、白梅学園大学の増田先生から子育ての現状や、子どもが抱えている問題など、また既に活動されている風鈴荘様のご様子などを伺いました。

その後、受講者がスタッフとなり、地域のどなたでも集える「誰でも食堂」にし、食堂の提供を軸に子どもたちの居場所を、また多世代交流の場を作る準備を進めてきました。

講座から地域支援の取り組みをすることになり、公民館職員の皆様にも参画頂き、また社協からはフードバンク、情報提供や手続きの支援などを助けていただいています。地域の多くの方々からのありがたいご寄付は初期経費を賄うのに助かりましたし、毎回畑から直の野菜提供など多くの方に支えて頂いてうれしい出発をしています。

私たちスタッフ15名は調理師指導の下、試作日を受け作業の流れを確認しながら料理を楽しみ、スタッフのやりがいのある居場所になればと思っています。当初コロナ対策も考え、70名入室可能なホールを2部制にとして50食を目標としましたが、回数を重ねるごとに食数も

多くなり、なんと申しましても「美味しかったわ～」の皆様からの一言に励まされています。

毎月第1日曜日、1部11時30分、2部12時30分開始となります。一食300円、中学生以下は無料としています。皆様のご来場をお待ちしております。



(石川 貞子さんへの追悼文)

7月9日(水)西ネット地域世話人の石川貞子さんがお亡くなりになりました。民生児童委員として地域のお世話をさせていただき傍らで、コミュニティサロンきよかを主宰し、中学生勉強会の「分かった会」も中心になって取り組んでいただきました。心より哀悼の意を表したいと思います。

石川貞子さん、空から西ネットを応援してくださいね

白梅学園大学 草野篤子

石川さんが、お隠れになられてから、早2か月になります。

石川さんとは、2011年の東日本大震災を契機として創

設された、小平西地区地域ネットワークの立ち上げ過程でお会いし、白梅学園大学を中心とする第3ブロックで、ご一緒に活動してきました。第3ブロックの地域で、

高齢者、引きこもりの青年、子連れのお母さんたちのための、コミュニティー・サロンの場所探しに、石川さんは奔走してくださいました。その甲斐あって、旧北澤さんの一戸建てを、無料で提供していただくことになりコミュニティー・サロン「きよか」が、成立しました。

お陰様で、小平西地区地域ネットワークが創立されてから、今年で10年を迎えます。小平西地区地域ネットワークで、奈良勝行先生を中心に「分かった会」という無料の学習塾をやっていますが、石川貞子さんは、元小学校の先生として培われたお力をあまねく発揮してくださいました。毎年3月には、中学3年生が都立高校や私

立高校に合格し、「分かった会」を修了する修了式の日には、手作りのお赤飯の折り詰めを修了生の一人ひとりに作られ、中学3年生の門出を、祝ってくださいました。

今までのお話でもお分かりになると思いますが、石川貞子さんの大変スケールの大きい、とても心の温かいお人柄は、周りのみんなを包み込み、多くの人を集わせるお力を持っていらっしゃいました。わたしたちは、石川貞子さんから学ばせていただくことが、沢山ありました。

ここに、謹んで、心から、石川貞子さんのご冥福をお祈り申し上げます。

「皆さん、がんばりましょうよ」の言葉

分かった会 奈良 勝行

石川さんは、分かった会に5年ほど前から講師として入っていただきました。いつも始業(午後6時)前に公民館に来て、子どもたちに「今日も勉強に頑張るんだよ!」と励ましていた姿が目には浮かびます。

民生児童委員としての豊富な経験から子どもたちに優しく接して子どもたちから人気がありました。クリスマス会や修了式には手作りのケーキやおにぎりを作って子どもたちから喜ばれました。修了式の文集作成も手掛けられ、大変助かりました。本当になくはない存在でした。

数年前に自動車の追突事故で首を傷められたとき、コルセットをはめて毎回公民館に来られました。見るのも痛々しいから「自宅でゆっくり療養してくださいよ」という私達の声も無視する“頑固”さがありました。

昨年からは病いに侵され、体を動かすのが億劫なご様子でしたが、それを押しつけて公民館に見えて生徒たちを暖かく見守ってくれました。私達講師にとってはその姿

が励みになりました。今年初めからずっと自宅で静養され、コロナ禍が終わったら今年中にまた会えるかも…講師に復帰してほしいという私達の願いも虚しく、旅立たれました。

まだ70台前半という若いお年で逝ってしまいました。民生児童委員として、分かった会の講師として、この内外ともに多難な時期にもっと社会で活躍してほしいです。

分かった会はコロナ禍のせいで、2年前に講座の3ヶ月間全面中止、その後公民館の夜間使用禁止により日曜日午後には開講、今は生徒の人数を制限し(一つの長机に生徒一人)、消毒をきちんと励行などをしております。また将来再び「まん延防止、緊急事態宣言」による活動制限もありうるという困難な状況の中にあります。こういう時期でも石川さんの「皆さん、一緒にがんばりましょうよ」との言葉を思い出して、講師一同、地道に指導を続けていきたいと思っています。

貞子さんのご逝去を悼み西ネットの方々と共に

地域のこれからを考えるために

-西ネットでの出会いから-2022年8月21日 金田利子

1. 出会いと「支えたい」というお人柄と、そして私の反省と

私が貞子さんに会ったのは一体いつだったのか、最初の対面は?・・・全然思い出せません。瀧口真央さんとはずっと前からの友人でしたから、その関係で瀧口家でお会いしたのかもしれませんが、10年以上前であったことはたしかですが、それほど何十年も前からではないのに、なぜか、生活の中に入っている方でした。私がここ小平の小川町1丁目の住人になり、75歳を超えてからは担当の民生委員さんでしたから気にしてくださっていました。でも「きよか」で毎週会うようになってからは、「きよか」はどうも担当の後期高齢者である私の生存状態の確かめを兼ねていらっしゃるようでした。一石二鳥と捉えてくださっていました。

ですから、私よりも10歳も年下なのにどこか母か姉のように思っていて、故郷というか実家を感じてしまい、「この地域には貞子さんがいるから何があっても大丈夫」なんて安心剤にもしてきていました。(もしかしたらそう思っていた方が多いのではないかと思います。)

それ故、私より10歳も若いけれどもお母さんのような方がなくなってしまった、とても信じられませんでした。頼り切っていて、貞子さんの健康のこと等、お加減が悪いと聞くまでは、まったく考えてもいませんでした。元気に違いないと信じ切ってしまう。

反省として、年齢に関わらず、常に近い人の健康は家族以外にもしっかり見ていなければいけない、生きていてほしいければ、その人の健康について自分の健康だけでなく互いに健康チェックをしていくこと、仮に聞いてくれなくても、いくら自分より若くても、気にかけて続けることをしてこなかったと、猛反省です。貞子さん本当にごめんなさい。

2. 貞子さんの人生から学びたい

貞子さんは、共働きをしながら核家族で教員をずっと続けられてこられた方と聞いています。今でも慕っている教え子やその父母は多いと思います。その証拠に今も教え子の仕事にも協力していました。ヤクルトを取ってと勧められたのも教え子の仕事の協力からだったと聞いています。私は教員養成課程の大学に勤めていましたので、教員になった卒業生に、「定年後も地域に役立てることを、定年後も地域の活動に力を出している貞子さんの姿を例に時折話してきていました。

また、私もそうでしたが今からかなり前の日本では子どもは母が育てるものと思われていましたので、共働きの継続には、大小様々な苦難があったのではと思います。

お弔いにお邪魔したとき、図々しく、隆さんに貞子さんとの出会いについてお訊きしたのですが、口ごもりつつ、今度書きますからと言われてしまいました。傍で理恵ちゃんが「聞いても話してくれないんですよ」と言っていました。隆さん、「今度書きますから」を信じています。もしかしたらもう書かれたのかもしれませんが、貞子さんの、そして石川さんご夫妻の人生から学びたい方は多くいます。

3. 貞子さんへの誓い—西ネットの方々と共に—

私たちはこれからその生き方に学び、その中から受け継げるものを受け継ぎ、さらに発展させていけるよう、西ネットの方々とともに、あなたから学びたいと願うみんなが力を合わせていきたいと思っています。あなたの取り組みが私たちに与えて下さったものを大切に、これからは繋げることを誓います。

貞子さん、ありがとうございました。

8月に詠みし短歌を披露する 過ち見詰め諦めぬため

- ◆ (1945. 8. 15を何と呼ぶ、沖縄復帰50周年を記に)
「終戦」でなく「敗戦」と呼ぶ意味は 今日にもつづく沖縄の基地
- ◆ (ロシアが生み育てた大文豪らに尋ねてみたらと想像し)
トルストイ、ゴーリキーらに訊いてみた「戦争止めよ」と口を揃えた
- ◆ (生活の保障より軍事費に力を入れる政権に)
信じたいスクラムパレード大署名 怒り集めて光の道へ
- ◆ (自治体の手上げが必要なこの制度、小平市でもやっと実現すると聞き、上記短歌の証として)
朝鮮系幼児教育無償化に 切り口開いた100万余筆

金田利子

世代間交流学会第 13 回大会に参加して

—西ネットのこれららに学べるもの—

金田利子

<今大会の特徴と概要>

この学会を白梅学園大学・短大で、西ネットも共催になって実行委員会（委員長森山千賀子・事務局長瀧口優）に加わって開催したのが、3年前の2019年で、第10回大会であった。コロナ禍の前であり、対面での開催であった。それから2年オンラインが続き、今年の第13回大会は聖路加国際大学で3年ぶりに待望の対面開催であった。同大学大学院看護学研究科亀井智子教授が大会長となり、同大学院が中心に実行に当たって来られた。

テーマは、「**危機的時代における世代間交流がもたらす持続可能なコミュニティづくり**」で、特別講演と教育講演にもテーマに即した研究者が起用されていた。そのもとでの大会主催のシンポジウムのテーマは「**大学生のパワーを生かした世代間交流による持続可能なコミュニティづくり**」であり、持続可能な方向として大学生パワーを活用しようというところに中心が置かれていた。

講演のテーマを見ると何が目指されているかわかるので記しておく。

大会長（亀井智子）講演「サステナブルな世代間交流とコミュニティづくり」

特別講演（ピーター・ホワイトハウス*）「新時代の到来機会と危機の時代における世代間の関係性」（*ケースウエスタンリザーヴ大学教授）

教育講演（垣花渉*）「学生と高齢者が協働する『健康長寿の街づくり』」（*石川県立看護大学看護学部人間科学領域教授）

シンポジウムの話題提供者と個々のテーマを見るとこれまた今回の課題の持続可能性への視点が見えてくるので挙げておく。講演者の所属等全てを記載することは紙幅の都合上割愛し、今大会のホームページで見たいくことにし、講演者名とテーマのみを示しておく。

◆片木孝治「次世代下宿『京都ソリデール』事業事例紹介」
—高齢者宅に学生が暮らす孫世代/他人との同居といった距離感が紡ぐ関係

◆小川敬之「授業を介した持続可能な世代間交流の構築に向

けての取り組み」

—高齢化の進んだ団地で、図書館と連携して、Webで—

◆斉藤ゆか「学生の参画力を育む世代間交流の展開と方策」

◆菊田文夫「大学生と定年退職者が創る新たな学びのコミュニティ」—聖路加国際大学と立教大学が協働する夏期集中講義における試み—

<西ネットから見た感想>

ここでは、上記の視点を共有していただいた上で、これからの西ネットの参考になりそうだと思う点について感想を述べる。学生が地域に出て地域の人々と交流し子育て広場などを中心に諸世代と関わってきた点で見ると、ここ西ネットの白梅学園の学生たちとの様々な交流は、他のどんな地域にも優るとも劣らないものがあると思われる。しかし今回新たに学ぶべき点も見いだされたのでそれについて述べる。

一つは次世代下宿の取り組みである。共に暮らしながら相互に交流する。私は、前から高齢者施設にショートステイのような形で出来るだけ安く学生が住めるような方向を提案してきた。しかし、下宿の発想に至っていなかった。それには住居づくり・街づくりの専門家の参加を得て、まさに小平市に7大学が、西ネットの中にも複数の大学があるのでそれらが協働していけば、高齢者と学生が共に暮らす下宿づくりの連携が可能ではないか。そこに他大学との連携・行政や建築家等との共同が必然になる。そうすることで、具体的な連携が可能になる。もちろん本腰を入れなければならないことであるが、不可能なことではない。それを京都の取り組みが示してくれた。

二つは、教育講演に見る「健康長寿の街づくり」である。敬老の日を迎え100歳以上の人口は年々増えており、今年9月の朝日新聞報道では9万人を突破している（厚労省）。問題はのうちどれだけが健康寿命かである。その統計は探しても見いだせなかった。（健康でなくても生きる権利・価値・意義があるのは当然である）。老いも若きも健康を自身が管理していく日々の生活の相互支援が必要である。若い人も食生活などを見直したり、

働き方に物を申したりしていく必要がある。その点を看護系の学生がいる大学で学生たちが活躍している報告に気付いた。看護系でなくても介護系ではもちろん、保育系でも、関連のある科目は学んでいる。地域には多くの学校（含幼稚園・保育

園等）などに看護師、保健師・養護教諭がいる。地域をつないで健康寿命を延ばすことと世代間交流を組み合わせる取り組みも加えたい。オンラインを活かせば、全国的にも、国際的にもこうした交流が懇談会・学祭等で可能だと感じた。

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～④)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております!

① ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜 10:00～16:00 (移転先検討中) 問い合わせ: 渡辺 穂積 TEL: 042-344-7412

② ほっとスペースきよか

毎週月曜 11:30～15:30 (移転先検討中)

③ カフェなかじま

毎月第1水曜日(祝日の場合は第2水曜日) 13:30～15:30 中島地域センター 参加費 100円

④ 「分かった会」小中無科学習教室

毎週木曜日 18:00～20:00 (小川公民館) 問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!) TEL: 090-4435-4306

イベントの予定

- 10月08日(土) 小川西町公民館祭り
- 10月09日(日) 小川西町公民館祭り
- 10月09日(日) 日本介護福祉学会(白梅学園大学にて)
- 10月22日(土) 白梅学園大学学園祭
- 10月23日(日) 白梅学園大学学園祭

*西ネットとして展示及び交流の場を準備します。

西ネットの今後の予定

- 大学世話人会: 10月04日(火) 18時～
- 地域世話人会: 11月08日(火) 18時～
- 大学世話人会: 11月29日(火) 18時～
- 地域懇談会: 12月13日(火) 18時～
- 大学世話人会: 01月10日(火) 18時～

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	大内智恵子・久保田進・ 穂積健児・杉浦博道・ 吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 細江卓朗・渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール: ever.onward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記: 「小平西のきずな」も今回で43号を迎えます。今号@では民生児童委員として、また西ネットの中心としてかかわっていただいた石川貞子さんを追悼します。7月9日に73歳という若さで亡くなりました。心から哀悼の意を表したいと思います。(瀧口)。